

「令和6年度全国学力・学習状況調査」結果について

1 実施概要について

(1) 調査の目的

- ①義務教育の機会均等とその水準の維持向上
- ②児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に活用
- ③教育に関する継続的な検証改善サイクルの確立

(2) 調査の対象及び内容 【令和6年4月18日（木）実施】

- ①各小学校6年生及び各中学校3年生の全児童生徒が対象
- ②調査内容
 - ア. 国語、算数・数学の学力調査
 - イ. 児童・生徒の学習状況等に関する質問紙調査
 - ウ. 学校に対する質問紙調査

(3) R5調査との主な変更点

児童質問紙及び生徒質問紙は文部科学省があらかじめ指定した日にオンライン方式で実施。

(4) 実施の状況（公立の実施学校数と児童生徒数）

①全国の状況

○小学校等

- ・国語： 18,466校 947,364名
- ・算数： 18,466校 947,579名

○中学校等

- ・国語： 9,268校 875,574名
- ・数学： 9,265校 875,952名

②本県の状況

○小学校等 222校（小学校216校、義務教育学校前期課程3校、特別支援学校小学部3校）

- ・国語： 7,491名
- ・算数： 7,490名

○中学校等 96校（中学校91校、義務教育学校後期課程3校、特別支援学校中学部2校）

- ・国語： 7,812名
- ・数学： 7,802名

2 学力調査の結果（本県における各教科の平均正答率）

(1) 小学校6年生 ※数値は正答率%（都道府県は整数値で公表）

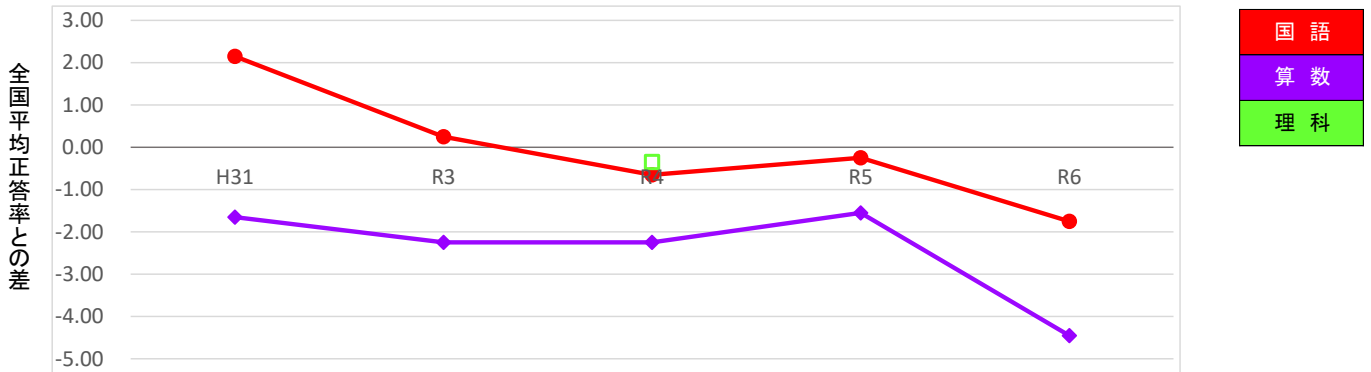
	山形県	全国
国語	66	67.7
算数	59	63.4

(2) 中学校3年生 ※数値は正答率%（都道府県は整数値で公表）

	山形県	全国
国語	58	58.1
数学	51	52.5

全国学力学習状況調査結果

全国学力調査（小学6年）経年比較



	H31	R3	R4	R5	R6
国語 ●	1.7 ~ 2.6	-0.2 ~ 0.7	-1.1 ~ -0.2	-0.7 ~ 0.2	-2.2 ~ -1.3
算数 ◆	-2.1 ~ -1.2	-2.7 ~ -1.8	-2.7 ~ -1.8	-2.0 ~ -1.1	-4.9 ~ -4.0
理科 □			-0.8 ~ 0.1		

※平均正答率について、全国の値は小数第1位まで示されているのに対し、都道府県の値は平成29年度から整数値で示されていることから、グラフの値は、全国との差の範囲の中間値を表示しています。

○小学校国語

年度	平均正答率	全国との差
平成 31 年度	66	1.7 ~ 2.6
令和 3 年度	65	-0.2 ~ 0.7
令和 4 年度	65	-1.1 ~ -0.2
令和 5 年度	67	-0.7 ~ 0.2
令和 6 年度	66	-2.2 ~ -1.3

○小学校算数

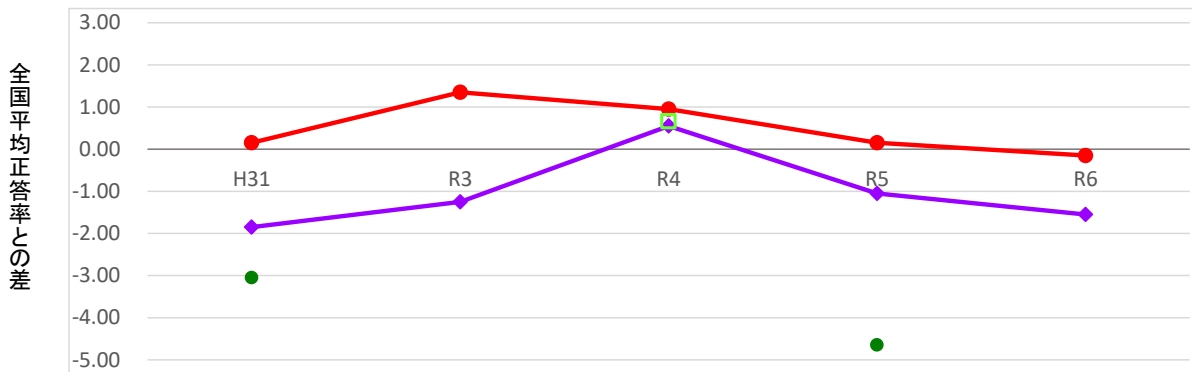
年度	平均正答率	全国との差
平成 31 年度	65	-2.1 ~ -1.2
令和 3 年度	68	-2.7 ~ -1.8
令和 4 年度	61	-2.7 ~ -1.8
令和 5 年度	61	-2.0 ~ -1.1
令和 6 年度	59	-4.9 ~ -4.0

○小学校理科

年度	平均正答率	全国との差
令和 4 年度	63	-0.8 ~ 0.1

全国学力学習状況調査結果

全国学力調査（中学3年）経年比較



	H31	R3	R4	R5	R6
国語 ●	-0.3 ~ 0.6	0.9 ~ 1.8	0.5 ~ 1.4	-0.3 ~ 0.6	-0.6 ~ 0.3
数学 ◆	-2.3 ~ -1.4	-1.7 ~ -0.8	0.1 ~ 1.0	-1.5 ~ -0.6	-2.0 ~ -1.1
理科 □			0.2 ~ 1.1		
英語 ●	-3.5 ~ -2.6			-5.1 ~ -4.2	

※平均正答率について、全国の値は小数第1位まで示されているのに対し、都道府県の値は平成29年度から整数値で示されていることから、グラフの値は、全国との差の範囲の中間値を表示しています。

○中学校国語

年度	平均正答率	全国との差
平成 31 年度	73	-0.3 ~ 0.6
令和 3 年度	66	0.9 ~ 1.8
令和 4 年度	70	0.5 ~ 1.4
令和 5 年度	70	-0.3 ~ 0.6
令和 6 年度	58	-0.6 ~ 0.3

○中学校数学

年度	平均正答率	全国との差
平成 31 年度	58	-2.3 ~ -1.4
令和 3 年度	56	-1.7 ~ -0.8
令和 4 年度	52	0.1 ~ 1.0
令和 5 年度	50	-1.5 ~ -0.6
令和 6 年度	51	-2.0 ~ -1.1

○中学校理科

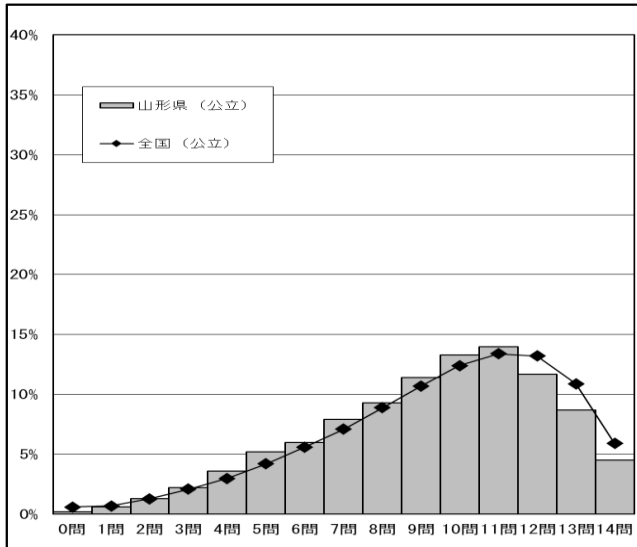
年度	平均正答率	全国との差
令和 4 年度	50	0.2 ~ 1.1

○中学校英語

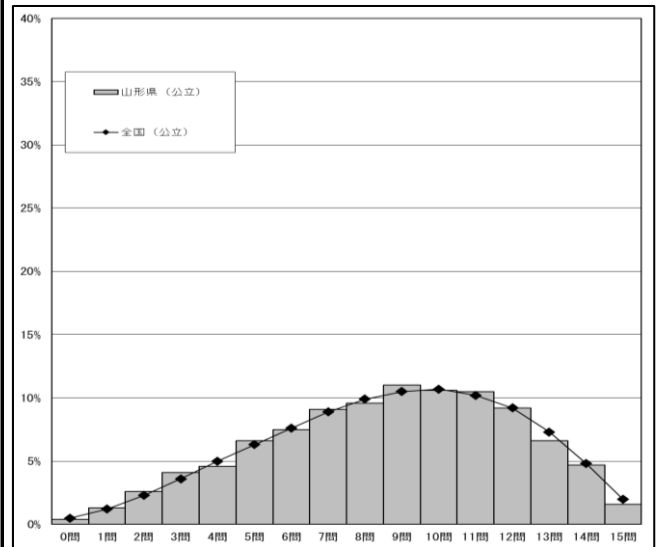
年度	平均正答率	全国との差
平成 31 年度	53	-3.5 ~ -2.6
令和 5 年度	41	-5.1 ~ -4.2

1 学力調査の結果（教科の平均正答率及び正答数分布グラフ）本県と全国との比較

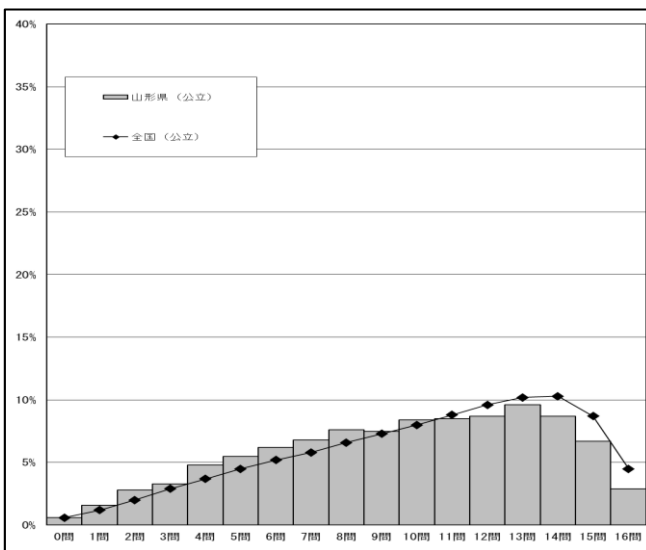
小学校 国語 【山形県 66 全国 67.7】



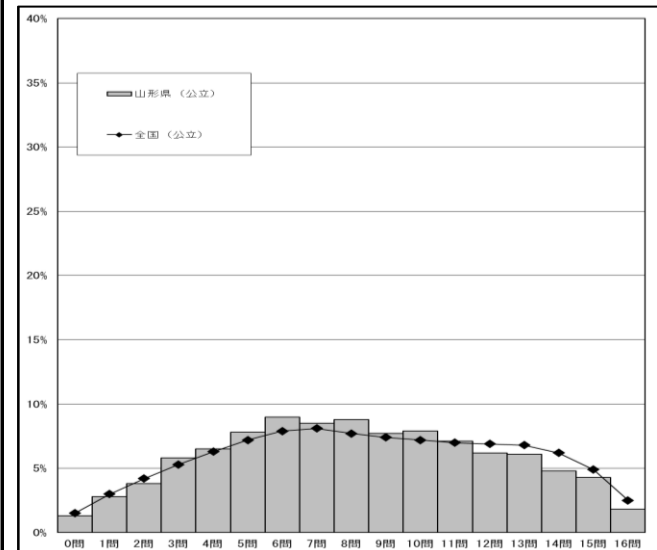
中学校 国語 【山形県 58 全国 58.1】



小学校 算数 【山形県 59 全国 63.4】



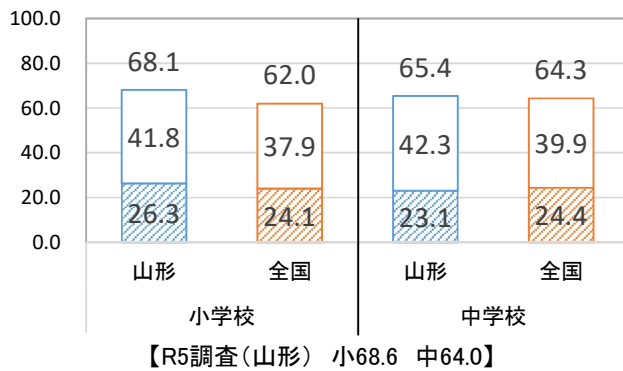
中学校 数学 【山形県 51 全国 52.5】



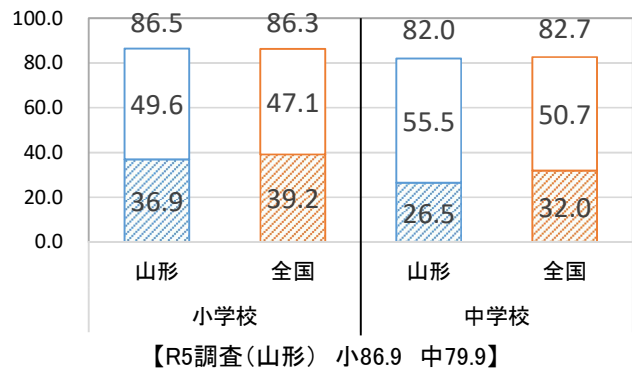
2 学習状況調査の結果から

(1) 教科に関すること

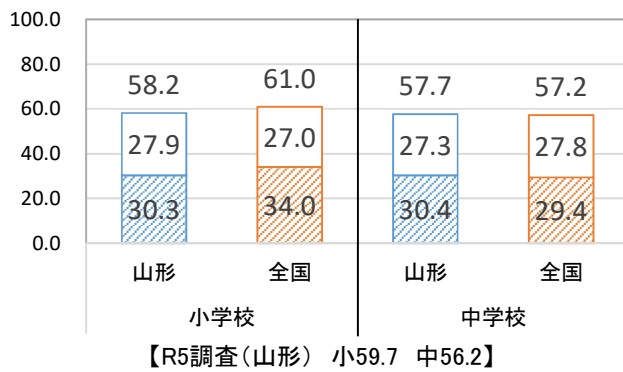
①国語の勉強は好きだ



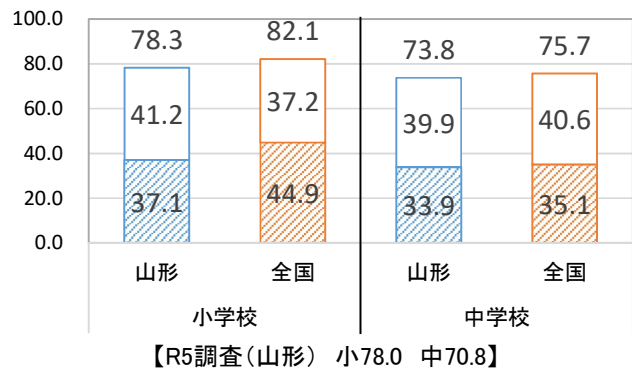
②国語の授業の内容はよく分かる



③算数【数学】の勉強は好きだ

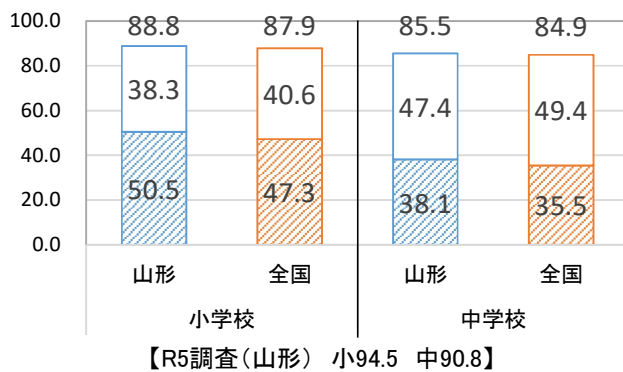


④算数【数学】の授業の内容はよく分かる

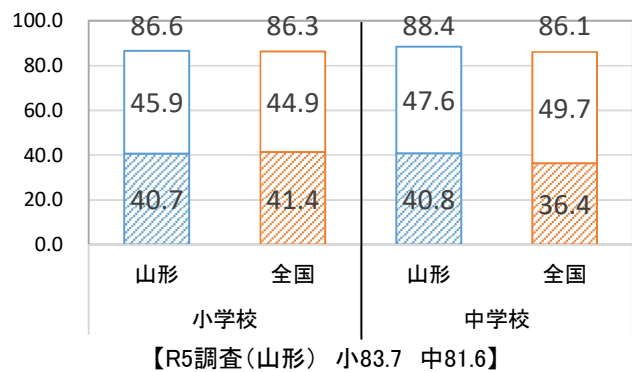


(2) 授業や学習等に関すること

①先生は授業やテストで間違えたところや理解していないところについて分かるまで教えてくれている

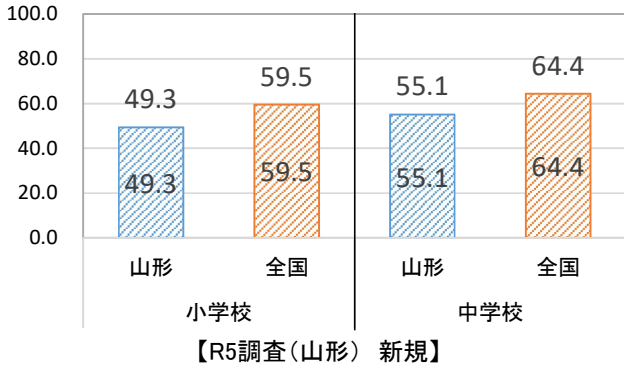


②学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている

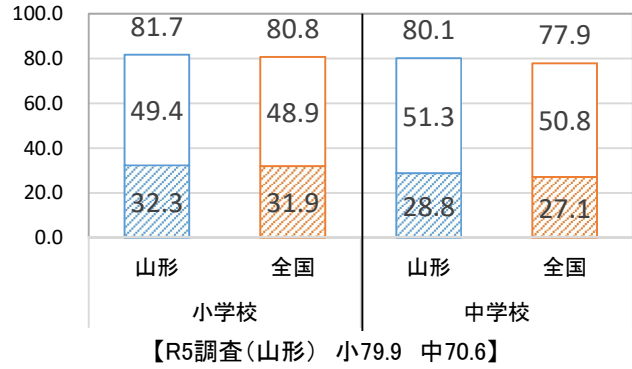




③5年生までに【1、2年生のときに】受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用している

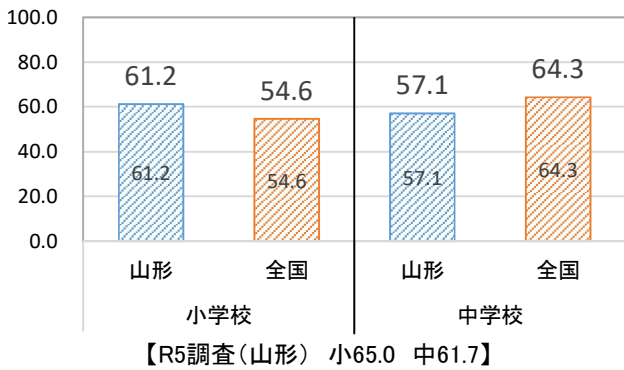


④学習した内容について、分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができる

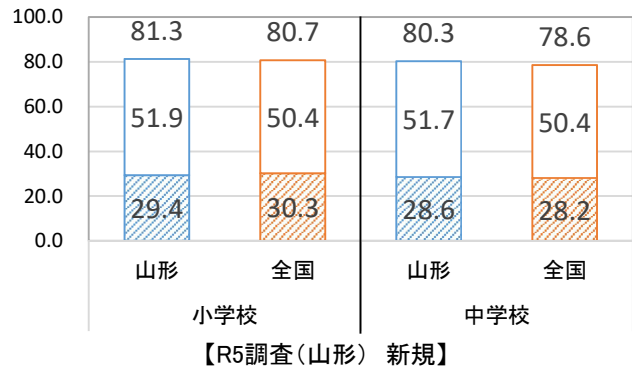


(3) 家庭生活に関わること

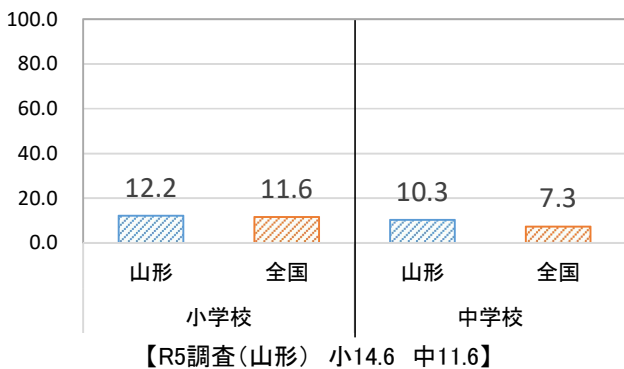
①学校の授業時間以外に平日1時間以上勉強をしている



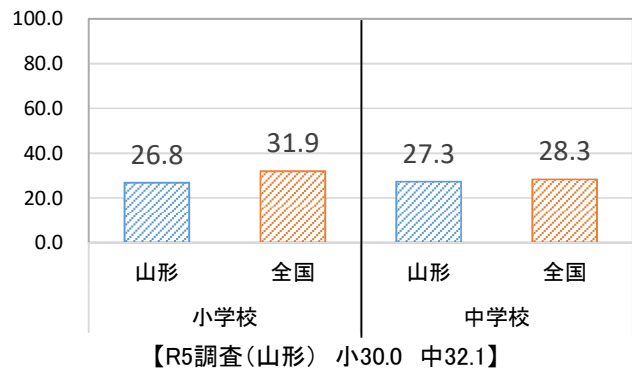
②分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか



③週1回以上新聞を読んでいる



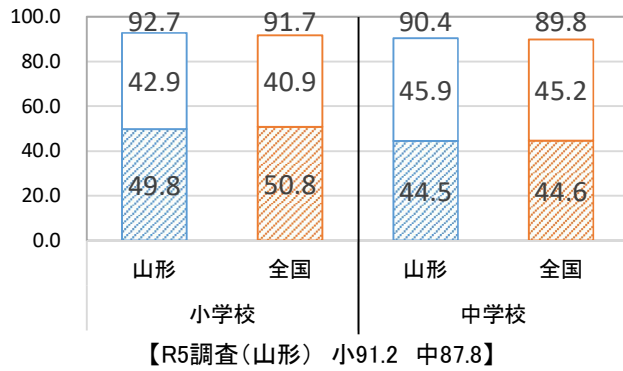
④家に101冊以上の本がある(雑誌・教科書除く)



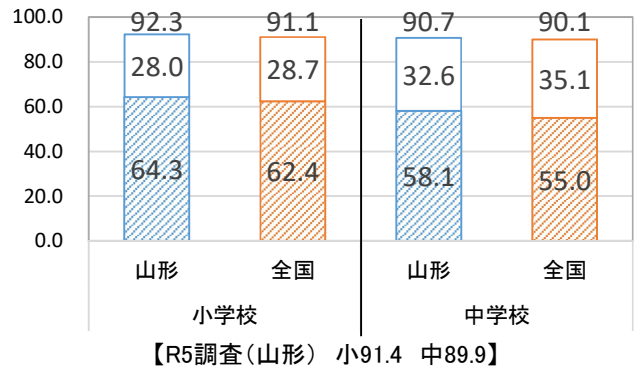


(4) 児童・生徒自身に関わること

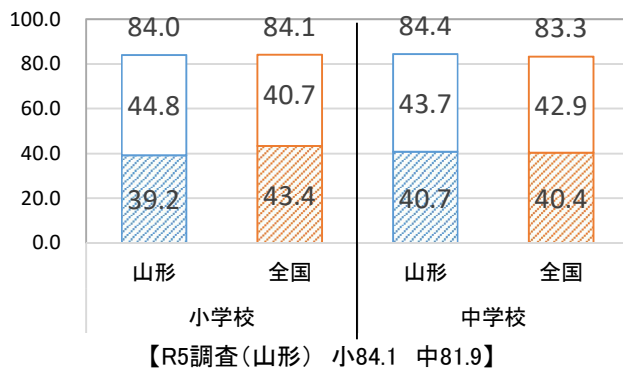
① 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある



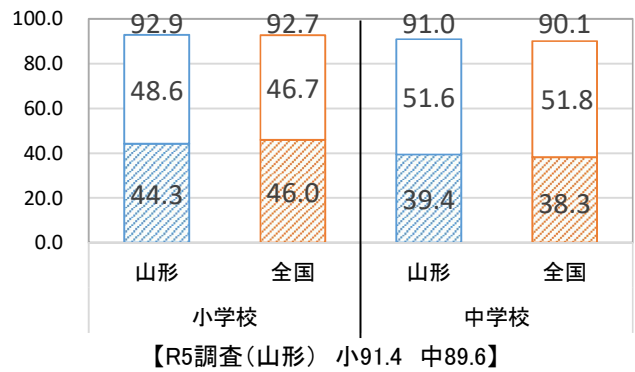
② 友達関係に満足している



③ 自分には、よいところがあると思う

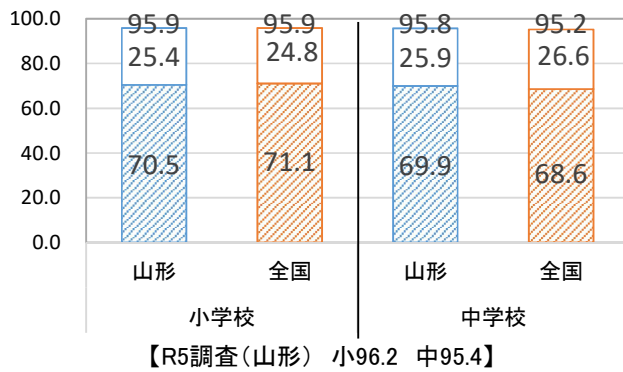


④ 人が困っているときは、進んで助けている

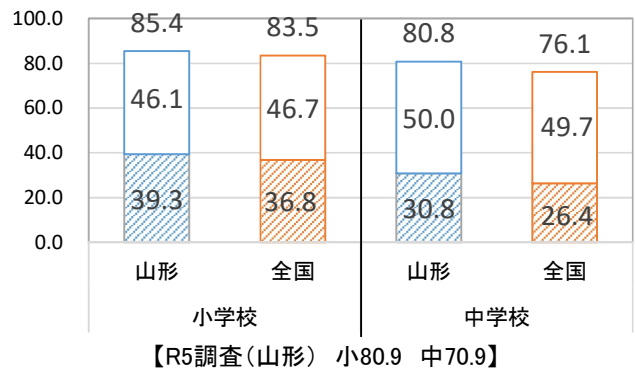


(5) 地域に関わること

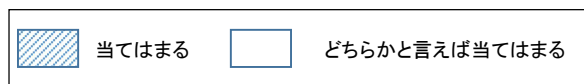
⑤ 人の役に立つ人間になりたい



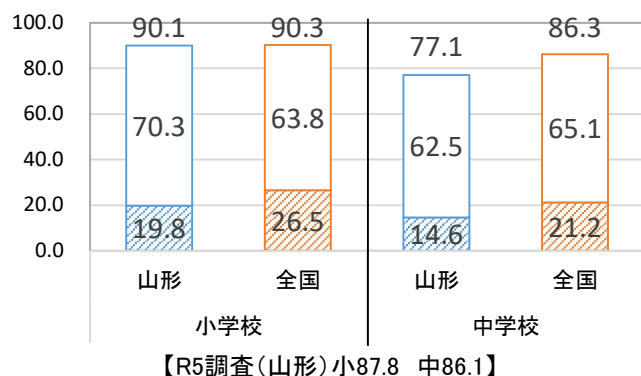
① 地域や社会をよくするために何かしてみたい



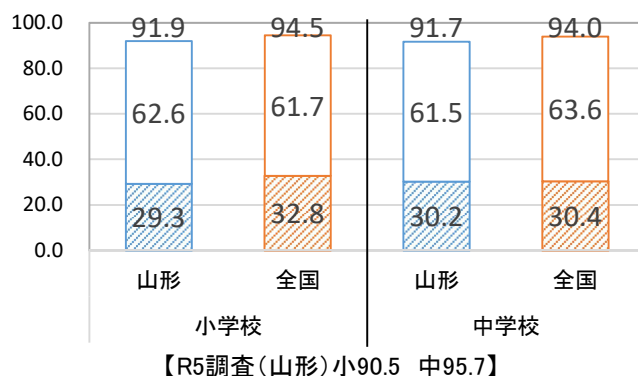
3 学校質問紙調査から



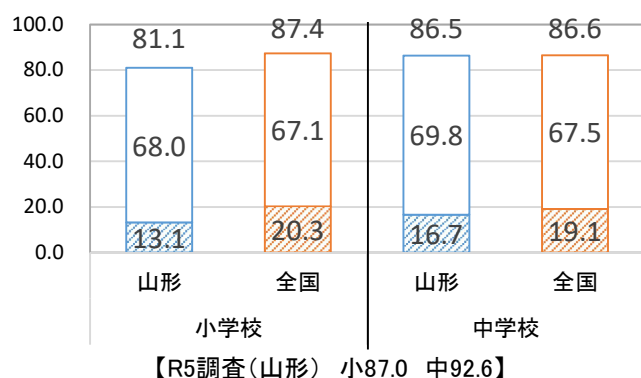
①児童生徒一人一人に応じた学習課題や活動の工夫をしている



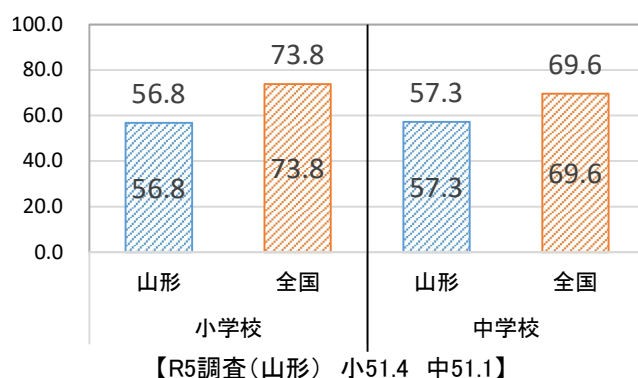
②それぞれのよさを生かしながら、他者と情報を交換して話し合ったり異なる視点から考えたり協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫している



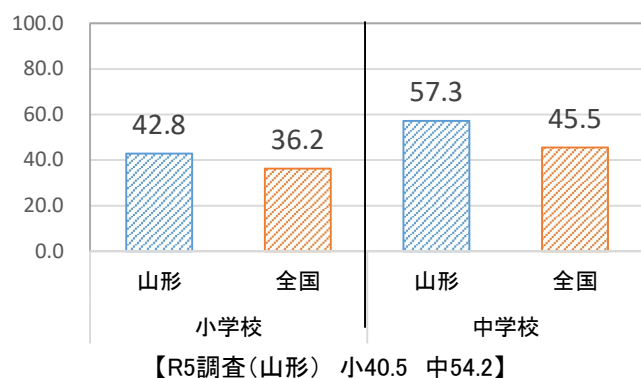
③習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしている



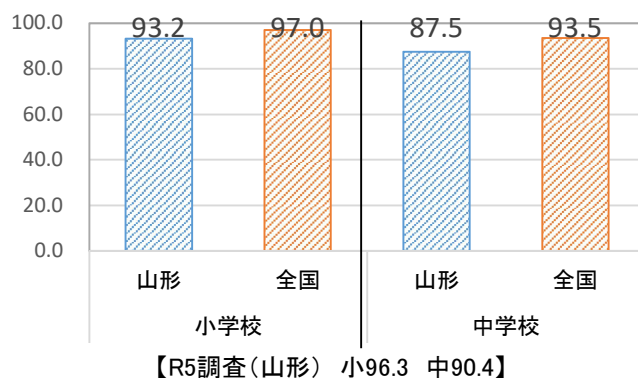
④児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を週1回以上使用している



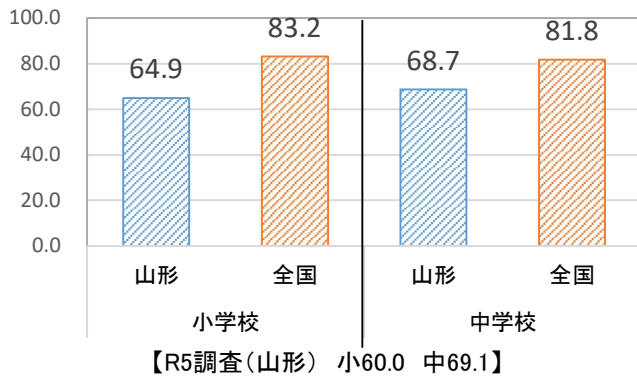
⑤児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、毎日持ち帰っている



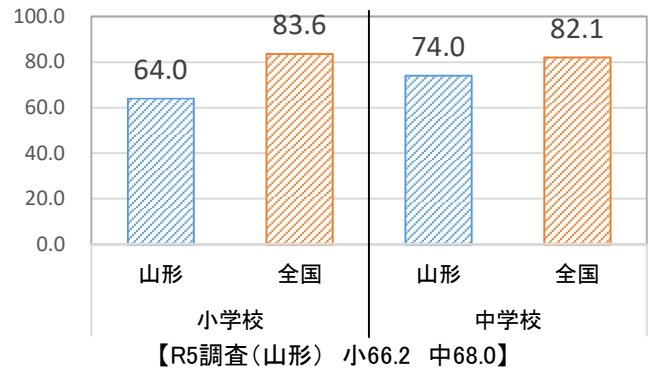
⑥学校で、授業中に自分で調べる場面で、週1回以上PC・タブレットなどのICT機器を使っている(インターネット検索など)



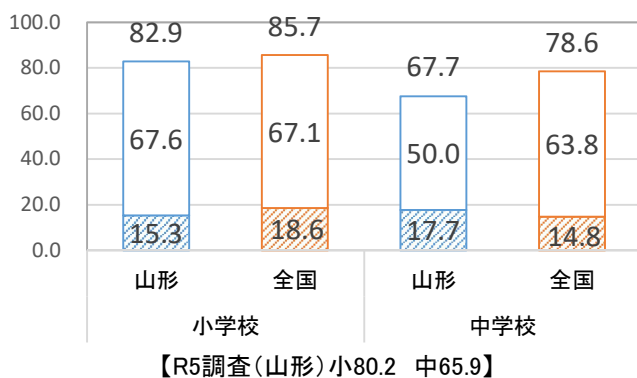
⑦先生と児童生徒がやりとりする場面で、週1回以上PC・タブレットなどのICT機器を使っている(インターネット検索など)



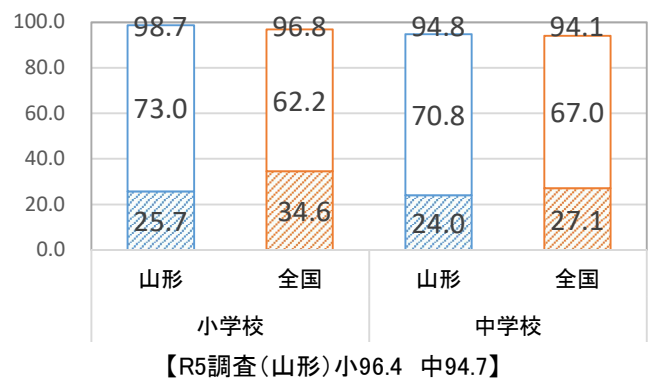
⑧学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、週1回以上PC・タブレットなどのICT機器を使っている



⑨各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか



⑩全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか



3 県教育委員会のコメント

◆学力調査について

小学校では、国語、算数ともに全国平均正答率を下回る結果となりました。中学校では、国語が全国平均正答率と同程度、数学が全国平均を下回る結果となりました。昨年度は小学校で改善傾向がみられたものの、今年度はどの教科も全国との差が広がり、これまで以上に授業改善に取り組む必要があります。

<国語> 小学校では、目的や意図に応じて、自分の考えが伝わる文章になるように書き表し方を工夫して記述することはできていた一方で、集めた情報を分類・関係付けして、伝え合う内容を検討して表現することには課題がみられました。中学校では、文章と図を結び付けながら、書かれている内容を解釈することに課題がみられました。小中学校ともに、授業において、自分の考えを分かりやすく伝えるために、資料を活用して表現を工夫する活動や、集めた情報を整理しながら文章を考え、表現する活動を充実させる必要があると考えます。

<算数・数学> 小学校では、わる数と商の大きさの関係や速さの意味を理解することに特に課題がみられました。中学校では、証明する意味や図形の性質を理解することに課題がみられました。小中学校ともに、数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けていく必要があります。児童生徒が、算数・数学を身の回りの事象と結び付けて考える活動や表やグラフなどからきまりを発見する活動等を含んだ数学的活動を通して、実感を持った理解をもとに習熟を図っていく必要があると考えます。

◆学習状況調査について

多くの児童生徒が、友達との話し合いを通じて、自分の考えを深めたり、学習を振り返り、自分の学び方を見つめ直しながら次の学習につなげたりするなど、意欲的に学習に向かっている様子が窺えます。一方、各学校においては、学習におけるICT機器の活用のあり方や、児童生徒の学習状況を把握・分析し、その後の指導方法を改善及び工夫することについて課題がみられます。ICT機器の効果的な活用を進めつつ、適切な児童生徒の実態把握により、授業改善を図りながら、児童生徒の意欲を着実に学力に結びつけるとともに、保護者と連携しながら家庭学習を充実させていく必要があると考えます。

<児童生徒質問紙より> 授業については、課題解決に向けて話し合う活動に積極的に取り組むことを通じて、自分の考えの深まりや広がりを実感できている児童生徒が多く、学習指導要領に基づいた指導の成果が表れています。一方で、算数・数学の授業の内容はよく分かると回答した割合が全国と比して低いことから、児童生徒が理解していないところを一層丁寧に見取り、個に応じて指導することで分かる実感味わわせ、楽しいと感じるような授業づくりが必要であると考えます。また、平日の家庭学習の時間について、前年度に比べて減少しているため、家庭における個に応じた学習の質と量を保護者と連携しながら充実させていく必要があると考えます。

<学校質問紙より> 授業については、児童生徒がそれぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、協力し合ったりできるような学習課題や活動の工夫に課題がみられます。また、ICT機器の活用について、学習の過程で児童生徒同士がやりとりをしたり、考えをまとめ、表現したりする場面での活用が全国に比して低い状況です。ICT機器の効果的な活用を図り、児童生徒の思考力・判断力・表現力の向上を促し、学びを深めることが必要であると考えます。また、前年度の調査結果を、学校全体で教育活動を改善するために活用していると答えている割合は高いものの、さらなる授業改善に向けて、市町村による調査結果の詳細かつ徹底した分析・評価をもとにした効果的な取組みを検討する必要があると考えます。

県教育委員会としましては、この度の結果について、市町村教育委員会と危機感を共有した上で、各市町村と連携して調査結果の詳細な分析・評価を行うことで、課題を明確にし、県の支援策を抜本的に見直すとともに、市町村による主体的で実効性のある取組みを促してまいります。